

礼拝さいこう

巻頭言

クリスマスメッセージ 礼拝者として生きる

松藤 一作 (福岡西部)

「羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った。」(ルカによる福音書2章20節)

救い主の誕生を最初に知らされたのは、野原で羊の群れの番をしていた羊飼いであったとルカによる福音書は伝えています。彼らは人口調査の数にも入れられず、社会の底辺・周辺で生活をしていました。暗闇と悲しみ、そして孤独が彼らを覆っていましたが、そこへ天使が救い主の誕生を告げるのです。天使に告げられたとおり、オムツにくるまれて飼い葉桶に寝かされた救い主を見出した羊飼いたちは、神をあがめ、賛美しながらそこから帰って行きます。

彼らは、再びあの野原へと帰って行きます。しかしそこはもはや、かつての暗闇と悲しみ、孤独に打ち拉がれるだけの場所ではなかったはずです。救い主との決定的な出会いを与えられ、勇気と希望を頂いた者の新しい歩みが、あの家畜小屋から始まっていったに違いありません。

私は、こうした羊飼いたちの姿に礼拝者の姿を見る思いがします。私たちも礼拝し、神をあがめ、賛美します。それでも、私たちを取り巻く生活の現実は何ら変わらないのです。それゆえに私たちにとっての礼拝は、時に日常生活からの単なる逃れの場になっていることがあります。確かに私たちはそこで慰めを受け、安らぎを得るのです。しかしまた同時に礼拝は、私たちを新たにし、私たちを再びこの世での働きへと遣わしていく派遣の場でもあります。礼拝によって神の救いの現実によって希望を与えられ、新たにされて、この世における神ならざるものによる支配に立ち向かうのです。その招きと派遣に応答し、決断を持って新たに歩を進めることもまた、私たちにとっての礼拝の場であると言えましょう。神ならざるものによる支配から解放され、主を証しし、主に従って歩む闘いの歩みが、礼拝から始まるのです。

バプテストの信徒にとって、応答と決断というキーワードは、その発足当初から最も重要にしてきたことです。そうした出来事が起こされる礼拝こそ、「豊かな礼拝」と称されるのだと思います。

私たちの礼拝から、どのような新しい歩みが起こされているのでしょうか。大きな時代の変化の中で、礼拝から始まる新しい歩み、主の現臨に相応しい歩みが、今こそ私たちに求められているのではないのでしょうか。

クリスマスの賛美歌の使い方

クリスマスの賛美 喜びを膨らませて

賛美歌の歌いかたの工夫のご紹介

末永美奈子（横浜JOY）

新生讃美歌190番《歌いましょう クリスマス》

原曲は1483年頃のフランスのキャロルで、1991年にMark Blankenshipによって編曲されました。クリスマスがテーマのこの曲は、演奏方法によってはリズムカルに、または反対に、ゆっくりと静かで穏やかな、まるで物語を読んで聞かせるようにも歌うことができます。無理のない音域と、覚えやすいリズムで、曲調を工夫して、クリスマスのシーンを歌うことのできる賛美曲です。

引用聖書に挙げられているイザヤ書9章は『闇の中を歩む民は、大いなる光を見 死の陰の地に住む者の上に光り輝いた。』とはじまります。その希望から与えられる『深い喜びと 大きな楽しみ』に感謝してクリスマスにはたくさんの賛美を捧げたいと願います。また、日本語の歌詞では、1節にイエス・キリストの誕生、2節に羊飼いが馬小屋へ導かれる様子、3節に飼えばおけのイエス・キリストを見つめるヨセフとマリア、4節に博士たちが遠い国からやってくる様子、5節に博士たちの贈り物について描かれています。キャロルはもともと民衆が教会の外で歌われたものという歴史がありますが、民謡調に作られたこの曲が、長い間人々の間で歌い継がれてきたことを想像することもまた喜びです。

歌い方の工夫として輪唱にもチャレンジしてみてください。第1グループが歌い、第2グループが1小節遅れて歌い始めます。3段目は4小節を第1グループが歌い、そのあと続けて第2グループがエコーのようにして歌い、また4段目では1、2段と同じように輪唱にもどります。クリスマスの祝会などで楽しむこともできるでしょう。

教会に初めて来た幼子が、クリスマスにはどのような出来事があり、何を祝っているのか、かつてどのように祝ったかを知り、また、よく知っている子ども達にとっても物語を毎年繰り返して歌うのは楽しい経験です。各節毎にシーンが明確ですので、一緒に絵画を見ながらイメージを膨らませたり、歌を取り入れての人形劇なども可能です。特に5節の「博士たちからの3つの贈り物」などは、「あなたなら何をプレゼントする？」など、展開できる部分かもしれません。以前、尊敬する姉妹から、クリスマスプレゼントに「乳香」の香りのハンドクリームをいただき感激したことがありました。五感私達人間の経験を豊かにさせてくれます。たとえば、幼子の掌に少しずつチューブから出してのせながら乳香の紹介をしたら、強く印象に残ることでしょう。「黄金の紹介には金塊型のチョコレート」なども、そのままクリスマス会のお土産になって楽しいですね。物語や五感を用いて経験したクリスマスを通して、家に帰っても、会話が広がっていくことでしょう。ご家庭でもメロディーが再び口ずさまれたら素敵ですね。

♪クリスマス賛美の紹介♪

クリスマスの準備が始まっていることと思います！ 「新生讃美歌ハンドブック」では、日本バプテスト連盟の曲解説をしており、クリスマスの曲も166番、180番、195番を紹介しています。曲の背景を知り歌うことで、さらに賛美歌に親しみが与えられます。ご活用ください。176番の賛美歌はいのちのことば社発行の『教会福音讃美歌』にも紹介され、他派でも広く歌われています。

この他、聖歌隊楽譜のクリスマス曲も多数取り揃えています（8ページ参照。）以前発行した、「うれしいクリスマス（こどものためにクリスマスカータータ）」（500円）も好評です。ご注文用紙は日本バプテスト連盟のホームページでダウンロードされるか連盟事務所までお問い合わせください。 TEL：048-883-1091 FAX：048-883-1092

176 主は豊かであったのに

Kaibaoko no naka ni (1997) 詞 中條譲治(ちゅうじょう・じょうじ) 中條智子(ちゅうじょう・ともこ)

OKUBO CHRISTMAS (1997) 曲 山中臨在(やまなか・ともなり)

Ⅱコリ8:9、フィリ2:6-11 [イエス・キリスト-降誕]

聖句:あなたがたは、わたしたちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は豊かであったのに、あなたがたのために貧しくなられた。それは、主の貧しさによって、あなたがたが豊かになるためだったのです。コリント信徒への手紙Ⅱ8章9節

〈テキストからの引用〉

主は豊かであったのに 貧しくなられた
わたしたちが主によって 豊かになるために(くりかえし)

〈作品の背景〉

作詞者たちが三島教会に赴任する前、大久保教会での最後のクリスマスに、当時、教会員だった作曲者から、クリスマスのために教会オリジナルの賛美歌を作る提案がなされ、この賛美歌が生まれました。

「聖書が語ることをそのまま歌いたいと願いつつ、“貧しくなられた主”に従うものでありたいとの思いを込めて作りました。賛美歌は“民(共同体)”の信仰であると思います。みなさんで(会衆によって)歌っていただけると嬉しいです。クリスマスに作りましたが、いつでも主の生涯を覚えるときに賛美してください」(中條譲治・中條智子)。

〈作者の履歴〉

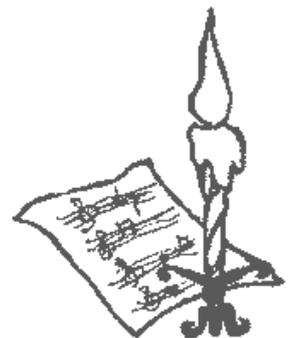
作詞の中條譲治は1964年生まれ。1973年、津田沼教会にて受浸。東京神学大学大学院修了。西南学院大学神学部専攻科卒業。大久保教会副牧師、牧師を経て、1998年より三島教会牧師。

中條智子は1965年生まれ。1989年、三鷹教会にて受浸。お茶の水女子大学卒業。東京神学大学大学院修了。1995年、結婚。1998年より三島教会牧師。

作曲の山中臨在は1963年生まれ。1971年、佐賀教会にて受浸。東京大学文学部美学芸術学科卒業。サウスウエスタンバプテスト神学校教会音楽学部修士課程卒業(指揮専攻)。17年間の俳優生活を経て、現在、浦和教会牧師、聖歌隊指揮者。

同じ作者の賛美歌

山中臨在 351



きよしこの夜

新生讃美歌163番

Franz Gruber
Arr. Kyoko Mito

3 5 4

2 1 4 3 4 2 1 4 3

5 2 4 5 4 4 1 2 4

4 2 1 4 2 1 5 3 1 3

子どもたちや、これからの奏楽者のためにどうぞご利用ください！

きよしこの夜

新生讃美歌163番

Franz Gruber
Arr. Kyoko Mito

3 5 4

2 1 4 3 4 2 1 4 3

5 2 4 5 4 4 1 2

研修会の感想

「奏楽者講習会報告」 (1)

オルガン奏楽（基本のキ）研修会の恵み

田中 輝美（有明）

2015年度内に3回連続で行うオルガン奏楽研修会の第1回目を8月29日（土）有明キリスト教会にて行いました。「初歩的な…」との呼び掛けに、大牟田フレンドシップ、八代伝道所、熊本愛泉、有明の4教会から6名の参加があり、よき学びの時、交わりの時となりました。

有明教会の奏楽奉仕者は3名、内2名は奉仕2年目で四苦八苦しております。当初からオルガンの基礎を学びたいと願っておりましたが、みな就業しており、地方連合主催の奏楽研修に手を挙げられずにおりました。そんな折、2014年度全国教会音楽研修会で、教会音楽室長から、来年度は奏楽者の育成の支援に力を入れる、とのお話があり、近くで学べないかと相談しましたところ、今回の研修が実現しました。

講師の青野詔子先生（平尾教会）にご足労いただき、いつも使っている11ストップリードオルガンを用いての贅沢な研修で、研修費は、連盟教会音楽室と所属教会からの補助＋自己負担で行っています。

今回は、オルガンの後ろを開いてリードを取り出し仕組みを見せて頂き、各ストップの特徴と使い方、ペダルの踏み方など、オルガン奏楽の基本のキを解り易く教えて頂きました。オルガンはピアノと違い、押すだけで音が出ることを実感しました。レッスンは練習してきた曲を一人ずつ弾き指導を受け、聞き合うグループレッスンで、青野先生からは「恥をかきながら上手になるのよー、讚美歌は難しいのよー」と優しく励ましの言葉を頂き、緊張しながらも楽しく三時間があっという間に過ぎました。曖昧だった点がスッキリし、練習への意欲が増しました。先生からも、楽しかった！とのご感想を頂きホッとしています。

奏楽奉仕では「研修の成果が生かされつつあるよ」と互いに励まし祈り合っています。只今、頂いた課題を練習中、次回の研修が楽しみです

「新しい歌を主に向かってうたい／美しい調べと共に喜びの叫びをあげよ。」詩編33編3節

地域での講習会開催のススメ

教会音楽室では「奏楽者講習会」や「新生讚美歌に親しむ会」など、2～3の教会が集まって開催する研修会支援しています。これまで、神戸教会、多摩川教会、郡山コスモス通り教会で、また、これからは水戸教会を会場に研修会が予定されています。研修会の時間には限りがありますが、共に集っての学びと励ましあいが力となるとの報告をいただいています。

連盟教会音楽からは講師紹介や、講師謝礼・交通費の一部を補助しています。また、継続できるように、その後も声を掛け合いつつサポートしていきます。

どうぞ！お問い合わせください！

「奏楽者講習会報告」 (2)

松永 智恵美 (臼杵)

さる9月13日に別府国際バプテスト教会の藤原晴美姉をお招きして、「奏楽研修会」を持つことができました。参加者は4名の予定でしたが、朝の礼拝から出て下さった藤原姉の人柄に魅かれて、最終的に8名の方々が参加することができました。御子様を5人育てながら、教会で30年間に及ぶ奏楽奉仕をされてこられたことに感動しましたし、誠実な奉仕に心がうたれました。研修会の中で、「奏楽者は会衆の讃美がメインなので、讃美のお手伝いをしてリードすることが大切である」と、言われました。また、「信仰をもって奏楽するという思いも大切」とも、言われました。

臼杵の教会では、これから奏楽者の育成と奉仕者を募っていき、上手になるには時間がかかりそうですが、奏楽を希望される方々と励んでいきたいと願っています。今後は、しばらく継続して研修会を持ち、藤原姉に具体的な奏法を習っていきたいと思っています。

藤原姉を喜んで送り出して下さった別府国際バプテスト教会の上に、また、色々とアドバイスを下さった教会音楽室に心から感謝を致します。



「新生讃美歌に親しむ会」

宮井 乃り子 (江波)

8月2日(日)午後、広島教会で行われた中国・四国連合・北ブロックでの「新生讃美歌に親しむ会」に参加しました。参加者は、緑の牧場教会2名、江波教会5名、広島教会30名ほど。講師は教会音楽室長江原美歌子さん、奏楽は広島教会高橋麗さん。讃美歌をたくさん歌い、新生讃美歌の歴史や特徴を楽しく学びました。私は、長い教会生活の中で賛美をすることは好きですが、楽器演奏はできず、賛美の研修会には参加したことがなく、今回、新しい扉が開かれた思いがしました。初めて歌う曲もあり新鮮でした。今まで、めくってみたこともない讃美歌集の後ろの「索引部分」の活用方法も知り、童謡「ふるさと」の曲に讃美歌の歌詞をつけて歌ったり、たくさんの楽しいヒントをいただきました。

また、特別の賜物をいただいた方々だけの研修会ではなかったので、来会の友と一緒に参加し、その方が「とても楽しかった」と言ってくださる喜びもいただきました。

以前「新生讃美歌奉献礼拝」が行われ、全国から集い、高らかに共に賛美をささげた「あのとき」の感動がよみがえりました。

今回のように誰でも気軽に参加できる「会」が、各所で開かれたらと願いました。

平野教会の賛美歌集について

主に向かってご当地の歌を歌おう ―「ジモティー讚美歌」の作成―

湯川晴雄（平野）

●オリジナル讚美歌集をつくる

2014年は平野バプテスト教会の「宣教40周年」の節目の年であった。わずか30名たらずの教会員は、特伝・記念誌・旅行・修繕・映画など12のプロジェクトチームにわかれて記念事業の準備を行ったが、その中で「讚美歌チーム」は、オリジナル讚美歌集『ひらのうた40』の作成を担当した。

それまでも、自作の曲を礼拝で歌うことはあったし、man-ba-kenという青年バンドなどは、おりにふれオリジナル曲を作っては演奏してくれていた。しかし、そうした曲をまとめて冊子化したのは2009年の『ひらのうた35』が最初で、今回の『ひらのうた40』は、それに続く2度目のオリジナル讚美歌集ということになる。

チームは春から作詞・作曲の提供をアピールしていたが、「作ってね」といったところですいすいできるような性格のものではないし、「歌詞はできたけど曲は無理」とか「楽譜なんかよう書かんわ」というのも当然出てくる。

こうした状況の中、チームの推進役となったのは、駅の列車発着音からこどものはなうたまで即座に譜面化できる芸大出のF姉と、音楽教育専門の小学校教師T姉であった。彼女たちは、提出をためらっている面々に「とにかくできた曲を歌ってみいや」とはげまして採譜するなどの努力をかさね、その結果、小学生からオバカン(還暦オーバー)に至る10数名による新曲の提供を得て、『ひらのうた40』は2015年イースターに刊行のはこびとなった。他教会の兄姉が多く応募してくださったのも大きな喜びであった。

●「ご当地讚美歌」のすすめ

伝道の種まく 平野の地に

「いつもいる、わたしは。いつもいる、ここに。」

【「わたしたちのまんやかに」（「ひらのうた40」より）】

イエスキリストは この平野を 必要とされました

なにもないところから 教会ができました

【「わたしたちの教会」（「ひらのうた35」より）】

『ひらのうた』には、当教会が位置する「平野（＝大阪市平野区）」の地名がおりこまれたものがいくつかある。いわば「ご当地讚美歌」「ジモティー讚美歌」である。これらを礼拝で歌うと、新来者や他教会からの出席者は最初はとまどわれるが、2番3番では一緒に楽しそうに歌ってくださる。

商業歌謡曲やPOPSではとうてい歌枕になりそうもない地であっても、そこに住む人々の祈り・感謝・礼拝があれば讚美歌は生まれる。その地に根ざしたリアルな願いや思いのふんだけ、中味は濃いだろう。「ご当地讚美歌」がどんどん登場すればいいと思う。各都道府県そろったら、全国大会を開いて歌いあう。楽しそうだし、なにより神様が大喜びされるような気がする。

●CDの作成

なお、『ひらのうた35』『ひらのうた40』から11曲をピックアップして「ひらのうたセレクトCD」も作成した。歌集は限定印刷のため余分はないが、CDはご希望の教会には進呈することができると思う。

注：念のため、「ジモティー」は「地元」に由来する現代風造語です。

「主の道しるべ」について・・・

『ひらのうた40』クリスマス賛美歌紹介

★作者：ANKOは、鳥取県出身の小学校教員。本文中の「T姉」と同一人物。「鳥取人なのに、大阪のおばちゃんより大阪のおばちゃんらしい」の評あり。長男のY兄は2015年のイースターに受浸。『ひらのうた40』中の「2つめの誕生日」はその時の感慨を歌ったものである。

★曲の背景：

ベツレヘムに人々を導く道しるべは、たった星ひとつ！ 神様のヒントは、いつもほんとにわずかです。こんな神様の“無茶振り”に、「ほんまわかりにくいわ。星だけの案内なんてありえへん！」とぼやきながらも旅を続けようとする博士や羊飼いを歌いつつ、自分自身の今をかさねてみました。

3 主の道しるべ - 幼子をもとめて -

詞・曲：ANKO

Em/C D/B C/A B7

1. あまねく きらめき まぎれ みえな くなる
2. さむぞらの したに ねむる ひつじ のむれ

9 Em/C D/B C/A D/B Em

みうし なつて きづいた 主のみちしるべ —
あたため みまもる 主のみちしるべ —

17 G C D G D7

ひがし のそら あか くる ほしが みちびく —
まきば のそら ひびく みつか いのこ え —

25 G Am Em B7 Em

なぐさ めとよ 'ろ こびを そこには あると —
あわれ みとみ わ ぎを あらわ すよう に —

33 Em D C Am/C B7

まよいた ちど まる みちは どこにつづく
ひたす らあ るくよ 主のみちびく ままに

41 Am9 Bm7 Am7 D7/B Em

ふ た た び て さ が そ う き ば う の ひ か し り —
し ん じ び て さ が そ う き ば う の ひ か し り —

- | | | | |
|-------------------------|---------------------|---------------------|------------------|
| 1. あまねくきらめき
見失って気づいた | まぎれ見えなくなる
主の道しるべ | 2. 寒空の下に
あたため見守る | ねむる羊の群
主の道しるべ |
| 東の空あかる
なぐさめと喜び | 星が導く
そこにはあると | 牧場の空ひびく
あわれみと御業を | み使いの声
あらわずように |
| 迷い立ちどまる
ふたたびさがそう | 道はどこに続く
希望の光 | ひたすら歩くよ
信じて進もう | 主の導くままに
愛の灯 |

クリスマス聖歌隊楽譜（演奏方法）紹介

連盟教会音楽室出版のクリスマスの聖歌隊楽譜とその歌い方などをご紹介します。
まだ歌っていないもの、これから練習！という教会の皆様。ぜひご参考ください。

03-10 「人みな喜び歌い祝え」（新生讃美歌193番）

4声、最後は女声が3部に分かれるところがあります。伝統的なキャロルで、街中でも聞かれるメロディーです。6ページからは力強く歌っていきませんが、伴奏が二分音符で、テンポが遅くなると間延びしてしまいますので、2拍子で力強く歌っていくとよいでしょう。

03-11 「いざうたいまつれ」（新生讃美歌187番）

大部分が女声と男声の2パートで編曲されています。ラテン語の伝統的なキャロルで、リズムカルな節まわしによって、よろこびが表されます。ページントのはじまり、または終わりに歌うのも効果的です。8分の6拍子ですが、2拍子にとって歌うことをおすすめします。

03-12 「来たれやインマヌエル」（新生讃美歌149番）

男声は大部分がユニゾンですが、女声は後半3部に分かれるところがあります。全体的にレガートで歌い、最後の「よろこべ」のところは力強く歌いましょう。ピアノの伴奏は後半、右手がオクターブ、左手も幅があり難しいところがあります。

04-1 「み使いたちのうた」（新生讃美歌167番）

女声2部、男声1部、天使の力強いグローリアの賛美ではじまり、オープニングなどに相応しい編曲です。比較的やさしく、男声も1パートのみです。伴奏も中級レベルですので、中高生や青年に伴奏をお願いすることもできるのでは？最後の「たたえよ」は力強く歌いたいですね。

04-2 「優しきマリア」（新生讃美歌183番）

ユニゾン、4声が交代して歌われます。2拍子にとって歌うように指示されています。伴奏形態から、レガートよりは、8分音符 ♪ に少しアクセントをおいて弾かれるとよいでしょう。最後にフォルテになりますが、最後ははじまりと同様に、小さなチャイムがなるように静かに終わります。

04-3 「歌えノエル」（新生讃美歌190番、186番）

4声ですが、女声、男声のユニゾンで歌う部分も多く、さほど難しくないでしょう。途中から「まきびとひつじを」のメドレーが続き羊飼いに天使が知らせを届ける聖書箇所朗読の前後に歌うこともできます。ノエルとはフランス語で「クリスマス」の意味です。

04-4 「来たりて拝め主イエスを」（新生讃美歌200、157、204番）

3曲のメドレーで、どれも親しまれている賛美歌なので、会衆が部分的に加わって歌うこともできます。その場合は、ゆっくり、たっぴりと歌いましょう。伴奏はところどころ軽快に弾く部分もあり、むずかしいところがあります。

04-5 「それは愛」

クリスマスに限らず、「イースター」、「愛」をテーマとした礼拝でも歌うことができ、途中、ナレーションも入り、みことばが心に響く編曲となっています。4声、ジャズのコードで音が取りにくいところや、ピアノ伴奏も音域が広く、むずかしい部分があります。最後はユニゾンとなっていますので、顔をあげてひとつとなって歌いましょう。

第12回全国礼拝音楽研修会 2016年5月4(水)～6日(金)

2016年5月には天城山荘では6年ぶりの全国礼拝音楽研修会を開催します。
御教会・伝道所の来年のご予定に加えていただきたく、ご案内いたします。

教会音楽専門委員会議は『新生讃美歌』（2003）が発行された後の2006年より、「礼拝」の学びを柱にすえ、「全国礼拝音楽研修会」を全国9ヶ所で地方連合の協力をいただき継続してまいりました。これまでも貫かれている願いに、音楽奉仕者のみならず、全信徒が参加できるようにということがあり、日程を5月のゴールデンウィーク開催としました。毎週の「礼拝」が豊かに捧げられるために、礼拝に参加する信徒が学び合い、研修が教会の励ましと力となることを願っております。

プログラム内容紹介

① 基調講演 朴思郁（宣教研究所所長） テーマ「礼拝をいきる～へいわの息吹」

高度な情報化、グローバル化、価値観の多様化が進む現代社会を生きる私たちにとって、果たして「礼拝」とは何なのか。また「礼拝をいきる」とは何を意味するのか。それが「平和」とどんな関わりを持つのか。みんなが心耳を澄まして「生の全領域において」「すべての被造物と共に礼拝者として生きる」という観点から、それらの意味を探りながら、今日における「礼拝者」の姿勢を改めて整える研修会になることを期待しています。

② 2つ選べる「分科会」

全信徒が参加できる分科会が充実。教会形成と礼拝を様々な角度から考えていきます。2日目の午前と午後（2時間ずつ）で違う分科会を選ぶことができます。

- 礼拝って何？ ●子どもともなる礼拝 ●今、へいわをつくる礼拝とは
- 司式 ●教会学校と礼拝（礼拝と教会学校をつなぐ）
- ピアノ はじめてみよう（1本指から、から「やさしい伴奏譜」まで）実践中心。
- 創作賛美歌（賛美歌の学び、あたらしい賛美歌の動向、創作賛美歌まで）
- 青少年の賛美と集会 ●日本語以外のことばで礼拝する教会

③ 分科会と並行して「実技分団」も充実 実践の学びも大切に、5時間たっぷり実技演習をします。

- ピアノ 基礎 ●ピアノ 応用 ●電子オルガン ●リードオルガン
- 聖歌隊 ●指揮 ●ギター ●キッズ 小学生まで

ほかにもスペシャルプログラムがいっぱい！

④「新生讃美歌を歌おう！」1日目夜、まだまだ歌いこなせていない「新生讃美歌」を、いろいろな歌い方の工夫やアイデア紹介しつつ、子どもから大人まで賛美する楽しい時間！

⑤「賛美歌のことばフォーラム」2日目14:00-15:30 賛美歌の「ことば」を意識をもって心から歌っていくために、いろいろな対話や学びあいが起こされています。様々な立場からパネラーをたて、これまでの諸教会から投げかけられている課題をわかちあい、礼拝ごとに歌っている「賛美歌」に改めて向き合う時間としていきます。

⑥「礼拝をつくろう」2日目夜、賛美歌の「賜物」を、礼拝にふさわしく用いていくために、礼拝の順序や、賛美歌の選曲、会衆賛美をコーディネートしつつ礼拝をたて、また、当日の参加者である会衆とよってつくりあげていくプログラムです。礼拝をつくるプロセスや体験を通して「へいわ」をつくることを考えていきます。

⑦「わかちあい*ことばにしていこう」3日目9:00-10:00、講演やささまざまな学び合いから得た経験を持ち寄り分かち合い、諸教会における礼拝を形成する働きを励まし、祈りあう時としていきます。

日程・費用等

日 程 : 2016年5月4日(水)～6日(金)

交通の混雑を避けるために最終日は平日としました。

場 所 : 天城山荘 静岡県伊豆市湯ヶ島2860-1

テーマ : 「礼拝をいきるーへいわの息吹」

聖 書 : 創世記2章7節

参加費 : 成人 27,000円 (26歳以上、宿泊・食費18,000円、登録費9,000円)
 青少年 15,000円 (中学生～25歳まで、※成人参加費から1万2000円の割引)
 小学生、幼児 15,000円 (宿泊、食費・登録費含む)

※交通費の補助 交通費が2万円以上の方には、一部交通費補助があります。

申し込み締め切り : 2016年3月28日(月) イースターの翌日です。

	4日(水)	5日(木)	6日(金)
9:00		朝食	朝食
		朝の礼拝 (証しと賛美)	わかちあい (小グループそして全体へ)
10:00		実技分団	閉会礼拝
		分科会 I (休憩)	
11:00			
12:00		昼食	※実技分団は1つのみ選択 ※分科会は午前と午後と 2つの分科会を選択
13:00		休憩	
14:00	受付	賛美歌 ことばフォーラム	← パネルディスカッション形式 初めての「ことば」フォーラム
15:00	開会礼拝		
16:00	基調講演	実技分団	
	質疑応答	分科会 II	
17:00	分団顔合わせ、分科会紹介		
18:00	夕食	夕食	
19:00	休憩	休憩	
20:00	新生讃美歌を歌おう!	(礼拝のそなえの時) みんなで礼拝をつくろう	← 青少年と子どもと一緒に
21:00	← 楽しいひととき		

ご案内の予定 : 第1信—11月25日、第2信—12月16日 (講師、分団、分科会紹介、申込書)
 第3信—1月 (分団の課題)